

## Lula 元大統領の返り咲きによるブラジル石油開発への影響

2022年10月に実施されたブラジル大統領選挙で左派の Luiz Inácio Lula da Silva 元大統領が、現職の Jair Bolsonaro 大統領を破り、次期大統領に選出された。Lula 氏は、過去数年間、プレソルトの探鉱・開発に注力してきた国営石油会社 Petrobras を、総合エネルギー企業に戻し、精製事業を再び拡大するとともに、エネルギー転換に貢献できる企業とするとしている。Petrobras やブラジルの探鉱・開発に大きな変化がもたらされる可能性がある。

### 1. はじめに

ブラジルでは、2022年10月2日に、大統領選挙の第1回投票が行われ、左派、労働者党の Luiz Inácio Lula da Silva 元大統領が48.4%、右派で、現職の Jair Bolsonaro 大統領が43.2%の票を獲得した。Lula 元大統領が第1回投票で圧勝するとの見方もあったが、Bolsonaro 大統領が追い上げ、Lula 元大統領は有効票の過半数を獲得することができなかった。

第1回投票で過半数の票を獲得する候補がいなかったため、10月30日に決選投票が行われることとなった。決選投票では、Lula 元大統領が50.9%の票を獲得し、得票率49.1%の Bolsonaro 大統領を破り、12年ぶりに大統領に返り咲くこととなった。2023年1月1日に大統領に就任する予定だ。

Lula 元大統領は、北東部 Pernambuco 州出身の77歳で、2003年から2期8年にわたって大統領を務めた。しかし、在任中に賄賂を受け取ったとされる汚職事件で有罪判決を受け、2018年4月から1年7か月にわたって収監されていた。そのため、前回の2018年の大統領選挙では裁判所から立候補の資格を停止されていた。その後、最高裁判所が Lula 元大統領に対する有罪判決を無効とする判断を示したことから、今回の大統領選挙に立候補することとなった。

Lula 元大統領と、それを引き継ぎ、2011年に大統領に就任した同じく労働者党の Dilma Vana Rousseff 元大統領の下では、国営石油会社 Petrobras を中心に探鉱・開発を進める政策がとられた。特に、沖合プレソルトの開発については、契約形態を PS 契約とし、Petrobras が鉱区権益の最低30%を保有し、オペレーターを務めるとするプレソルト開発法が定められた。Petrobras は汚職の温床となり、また、輸入した石油製品をブラジル国内において割引価格で販売し、その逆ザヤを負担することを求められ、多額の負債を背負わせられた。

続く Temer 前政権は、ビジネス志向、市場志向の探鉱・開発政策をとり、プレソルト開発法を改正、ローカルコンテンツに関する規則を改善、ユニタイゼーションに関する問題点を解決する等、石油産業の改革を進めた。2017年以降、鉱区入札も頻繁に実施されるようになり、メジャーを中心にプレソルトエリアやその周辺鉱区を落札、外資参入が進んだ。

2019年に就任したBolsonaro大統領の下では、外資呼び込みを図るため、Open Acreage方式の鉱区入札制度が導入された。Open Acreage方式の入札は、当初、成熟油田や過去の入札で落札されなかった鉱区、返還された鉱区を対象に、企業の要請に基づいて実施されていたが、今後は、対象をプレソルトの新規鉱区まで広げ実施されることとなった。

Petrobrasについても、石油製品価格を国際市場価格に連動した価格にすること(policy of international parity:PPI)や、プレソルトの油田開発に注力し、製油所や、国外資産、陸上や浅海の鉱区権益等を売却することで、債務削減を図ってきた。

## 2. Lula政権下で予想される石油産業への影響

Lula次期政権下では、探鉱・開発やPetrobrasに関してどのような政策がとられ、石油産業にどのような影響が及ぶのだろうか。

Bolsonaro大統領は再選された場合にはPetrobrasの民営化を行いたいとしていたが、Lula氏はこれに強い反対を示しており、阻止するとしていた。そして、Petrobrasを探鉱、生産、精製、販売に投資する総合エネルギー企業に戻すとしている。Lula氏は、Petrobrasはプレソルトの開発にのみ注力すべきではなく、その代わりに、精製部門の拡大、国際事業の再構築を行うとともに、バイオ燃料の生産に重点を置き、世界的なエネルギー転換に貢献する新たな機会を追求すべきだと考えているという。さらに、ガス、肥料、再生可能エネルギー等、エコロジーとエネルギー転換につながる分野、Bolsonaro政権下では撤退するとされていた分野へ、Petrobrasが復帰することを考えているとされる。Lula氏は、Petrobrasはプレソルトの油田開発に集中することで収益を上げることに成功したが、世界的な脱炭素化の流れの中でエネルギーセクターが迎える転換には十分に備えられていないとし、高い利益や配当を生み出す効果が低くても、これらの業務をより優先度の高いものとするとしている。

特に、精製部門に関してLula氏は、Petrobrasの下流資産の売却には賛成していないと繰り返し発言、Petrobrasはブラジルの精製部門を支配し続けるべきだとしている。そのための具体的な方策は語られていないが、同氏のアドバイザーからは、売却した製油所を買い戻すか、あるいは、新たにPetrobrasから独立したこれらの製油所の取締役を任命する権利を政府やPetrobrasが確保すること等が提案されているとの報道もある。

Petrobrasは、所有する13の製油所のうち8製油所を売却することを決定、2021年には東部Bahia州São Francisco do CondeのLandulpho Alves製油所(RLAM)を18億ドルでUAEのMubadala Capitalに売却した。RLAMは現在、Mataripe製油所に名称を変更し、Mubadala Capitalの系列会社であるAcelenが操業を行っている。Acelenは、同製油所の稼働率を買収当初の70%からほぼ100%に引き上げることに成功したという。Petrobrasによる同製油所の買い戻しについては、Petrobrasが交渉を開始しようとするれば、Acelenが拒否する可能性はないだろうとの見方と、Acelenは投資計画を実施している最中であるため、同製油所の売却は考えていないとの見方が並立している。

Petrobrasはまた、2022年11月4日に、南部Paraná州São Mateus do Sulに位置するUnidade de Industrializacao de Xisto(SIX)製油所をカナダのForbes & Manhattanに4,160万ドルで売却した。

### Global Disclaimer(免責事項)

このウェブサイトに掲載されている情報はエネルギー・金属鉱物資源機構(以下「機構」)が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、機構が作成した図表類等を引用・転載する場合は、機構資料である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。機構以外が作成した図表類等を引用・転載する場合は個別にお問い合わせください。※Copyright(C) Japan Organization for Metals and Energy Security All Rights Reserved.

Petrobras は他にも、ブラジルの燃料販売会社 Atem Distribuidora と北西部 Amazonas 州 Manaus に位置する Refinaria Isaac Sabba (REMAN) 製油所、ファンド Grepar Participações と東部 Ceará 州 Mucuripe Fortaleza に位置する Refinaria Lubrificantes e Derivados do Nordeste (LUBNOR) 製油所の売却契約を締結している。

残りの 4 製油所、Abreu e Lima (Rnest)、Presidente Getúlio Vargas (Repar)、Alberto Pasqualini (Refap)、Gabriel Passos (Regap) については今後売却予定とされているが、すぐに契約が結ばれない場合、Petrobras を経済発展の道具として活用することを目指す Lula 新政権によってその売却プロセスが停止される可能性が高いと見られている。

Petrobras は、天然ガスパイプライン事業者の Nova Transportadora do Sudeste (NTS) と Transportadora Associada de Gás (TAG) についても、それぞれ約 70 億ドルで Brookfield/Itaúsa と Engie/CDPQ に売却した。現在、ボリビアとブラジル間の Gasbol パイプラインを運営する Transportadora Brasileira Gasoduto Bolívia-Brasil (TBG) の売却を進めているところだ。

Lula 新政権は、既存の契約を破棄することではなく、すでに売却された資産について再度取得することはないが、今後、これら精製、天然ガス部門に加え、中流部門の資産売却についても実施されない可能性が高いと見る向きが多い。

(表 1) Petrobras が売却あるいは売却契約を締結した製油所

製油所	所在州	精製能力	売却先	売却額	状況
Landulpho Alves (RLAM)	Bahia	323,000b/d	Mubadala Capital	18 億ドル	売却完了
Unidade de Industrializacao de Xisto (SIX)	Paraná	6,000b/d	Forbes & Manhattan	4,160 万ドル	売却完了
Refinaria Isaac Sabba (REMAN)	Amazonas	46,000b/d	Atem Distribuidora	1 億 9,000 万ドル	契約締結
Refinaria Lubrificantes e Derivados do Nordeste (LUBNOR)	Ceará	8,000b/d	Grepar Participações	3,400 万ドル	契約締結

(出所: 各種資料を基に JOGME 作成)

Bolsonaro 政権下で、Petrobras は原油とガスの生産に集中、事業の効率化と二酸化炭素排出量の削減に焦点を当ててきた。しかし、Lula 次期大統領は、Petrobras が再生可能エネルギー分野でより積極的な役割を果たすことを望んでいるとしており、ブラジルの再生可能エネルギー分野での役割見直しを迫られる可能性がある。

**Global Disclaimer (免責事項)**

このウェブサイトに掲載されている情報はエネルギー・金属鉱物資源機構（以下「機構」）が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、機構が作成した図表類等を引用・転載する場合は、機構資料である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。機構以外が作成した図表類等を引用・転載する場合は個別にお問い合わせください。※Copyright(C) Japan Organization for Metals and Energy Security All Rights Reserved.

Lula 次期大統領が、石油製品価格を国際市場価格に連動した価格にする PPI システムを修正すると見る向きは多い。しかし、Petrobras を舞台とした大規模な汚職事件以降、同社の内部統制やコンプライアンスは強固なものとなっており、政府からの干渉にも強くなっている。Bolsonaro 大統領も、ロシアによるウクライナ侵攻で原油価格が高騰したことにより、ブラジル国内の石油製品価格が上昇することを避けようと試み、Petrobras と対立することとなった。PPI システムが比較的新しいものであることから、Lula 次期政権は、時間をかけることによって、同システム修正を実現する可能性もある。

このように Lula 次期政権下で、Petrobras が資産売却を停止し、これまでの探鉱・開発中心の活動から事業を拡大することになれば、必然的に探鉱・開発への投資額は削減され、探鉱・開発は停滞することになる。Petrobras は毎年、5 年間の事業計画を発表している。2022 年末に発表される予定の事業計画については、Lula 氏が大統領に復帰することによる影響はほとんどないと思われるが、今後、具体的な計画や行動につながっていくものと考えられる。

また、以前の Lula 政権下では、Petrobras 中心にプレソルトの開発を進めようとしたことで、鉱区入札が停滞し、外資参入が滞った。同じような状況が生じる可能性は否定できない。

### 3. 好調な原油、天然ガス生産

ブラジル国家石油庁(National Agency of Petroleum, Natural Gas and Biofuels:ANP)によると、2022 年 9 月のブラジルの炭化水素生産量は、8 月より 2.0%、2021 年 9 月より 5.4%増加し、原油換算で日量 404.8 万バレルとなった。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって、原油、天然ガスともに生産が伸び悩んでいたが、2022 年 7 月以降は生産が増加し、それ以前の生産記録である 2020 年 1 月の日量 404.1 万バレルを上回り、過去最高を更新したことになる。ブラジルの炭化水素生産量が日量 400 万バレルを超えたのは、この 2 度のみである。

2022 年 9 月の原油生産量は、8 月との比較で 2%、2021 年 9 月比で 4.9%増加し、日量 314.8 万バレルとなった。ガスを含めた生産量では今回が過去最高となったが、原油のみでは 2020 年 1 月の日量 316.8 万バレルに次ぐ過去 2 番目の数字となった。このうち、プレソルトの原油生産量は日量 235.9 万バレルとブラジルの原油生産量の 75%を占めた。

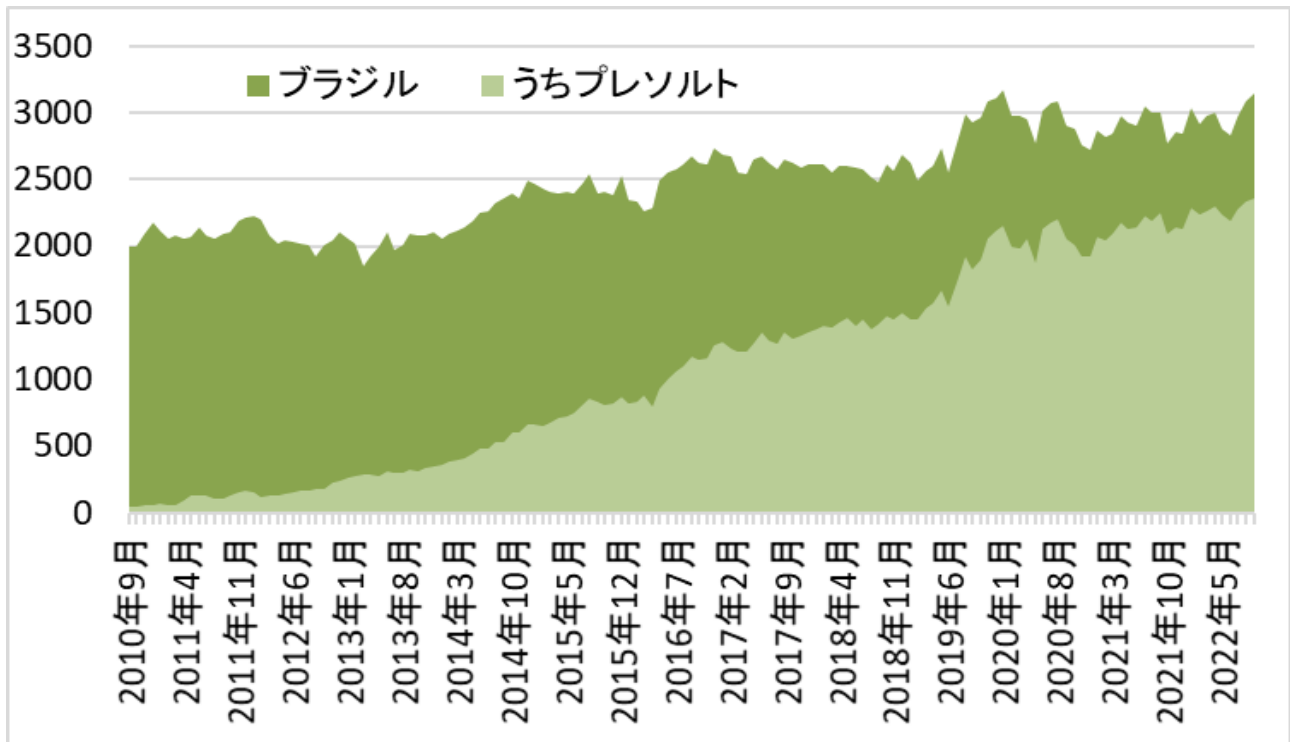
9 月の天然ガス生産量は、前年同月比 7.5%増の日量 1 億 4307 万立方メートルとなった。天然ガス生産量の過去最高記録は 2022 年 8 月の日量 1 億 396 万立方メートルであったが、9 月はこれを 2.2% 上回り、過去最高を記録した。このうち、プレソルトの天然ガス生産量は日量 1 億 185 万立方メートルと全体の 71%を占めた。

プレソルトで最も生産が多かった油田は Tupi 油田と Buzios 油田で、それぞれ原油換算で日量 116 万バレルと日量 67.1 万バレルを生産、次いで Sapinhua 油田が日量 25.6 万バレル、Sepia 油田が日量 19.7 万バレル、Atapu 油田が日量 19.4 万バレルを生産した。原油について見てみると、生産量が最も多かったのは Tupi 油田で、日量 88.8 万バレルを生産した。最大の生産井は Atapu 油田の P-70 FPSO に接続された 7-ATP-6-RJS 井で、原油換算で日量 6.5 万バレルを生産した。

#### Global Disclaimer (免責事項)

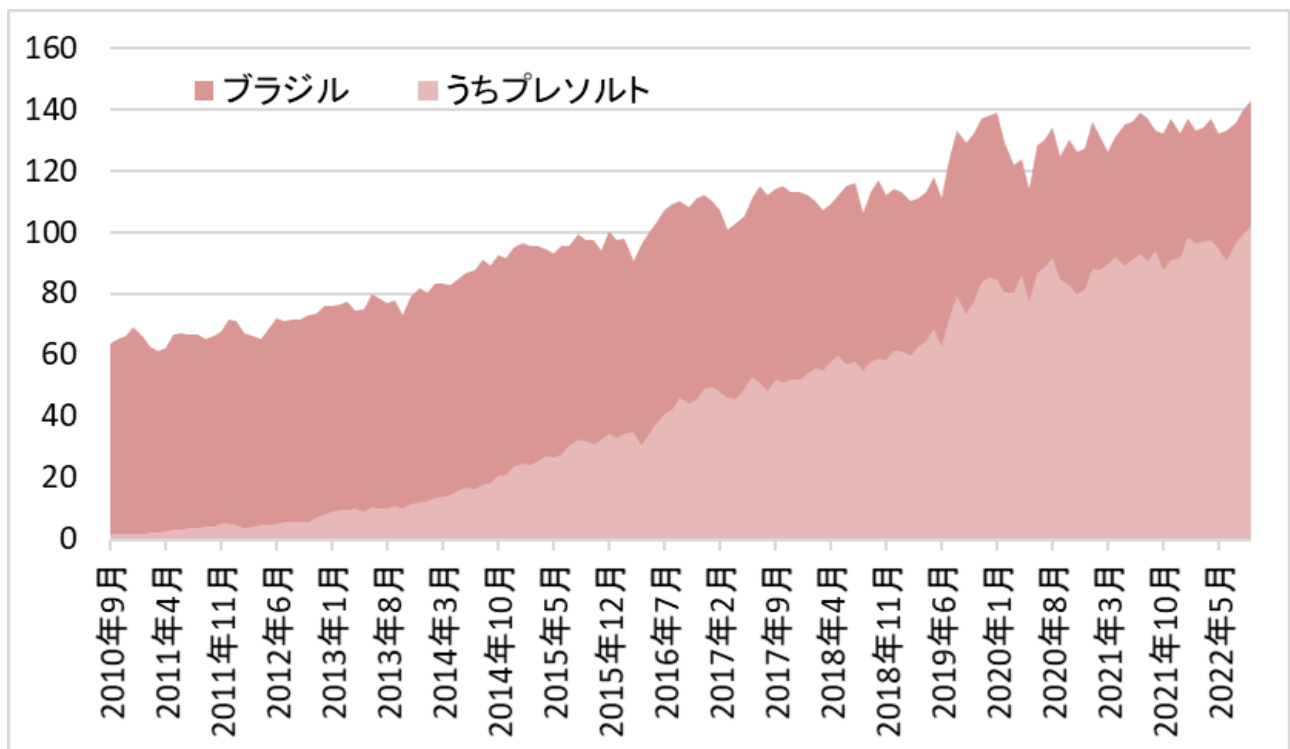
このウェブサイトに掲載されている情報はエネルギー・金属鉱物資源機構(以下「機構」)が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、機構が作成した図表類等を引用・転載する場合は、機構資料である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。機構以外が作成した図表類等を引用・転載する場合は個別にお問い合わせください。※Copyright(C) Japan Organization for Metals and Energy Security All Rights Reserved.

(図1)ブラジルの原油生産量(単位:日量千バレル)



(出所:ANP の website を基に JOGME 作成)

(図2)ブラジルの天然ガス生産量(単位:日量百万立方メートル)



(出所:ANP の website を基に JOGME 作成)

**Global Disclaimer (免責事項)**

このウェブサイトに掲載されている情報はエネルギー・金属鉱物資源機構(以下「機構」)が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、機構が作成した図表類等を引用・転載する場合は、機構資料である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。機構以外が作成した図表類等を引用・転載する場合は個別にお問い合わせください。※Copyright(C) Japan Organization for Metals and Energy Security All Rights Reserved.

では、ブラジルの原油、天然ガスの生産量は今後、どのように推移するのだろうか。

政府の研究機関 Energy Research Co. (EPE) がまとめた 2032 年までのエネルギー見通しによると、Petrobras や Equinor 等がプレソルトの油田の生産を開始することにより、ブラジルの原油生産量は、2021 年の日量 290 万バレルから 2022 年には日量 300 万バレル、2023 年には日量 330 万バレルに増加、さらに 2029 年には日量 540 万バレルのピークに達するという。その後、生産量は徐々に減少し、2032 年末には日量 490 万バレルになるとしている。生産量の約 95% はすでに発見された資源によるものとされ、探鉱により生産量がさらに増加する可能性があるとしている。EPE は、プレソルトの原油生産量は 2029 年から 2030 年には日量 430 万バレルのピークに達し、ブラジルの原油生産量の 80% を占めるとしている。

EPE は、前回発表した 2031 年までのエネルギー見通しでは、ブラジルの原油生産量は 2022 年に日量 340 万バレル、2023 年に日量 350 万バレルまで増加すると見ていたが、新型コロナウイルス感染拡大が FPSO 浮体式生産貯蔵積出設備等の設備納入に影響を及ぼしたことにより下方修正したという。前回の見通しでは、ブラジルの原油生産量のピークは日量 520 万バレルとしていた。

一方、天然ガス生産量は、2021 年の日量 1 億 3,400 万立方メートル、2022 年の日量 1 億 4,400 万立方メートルから、2032 年には 2 倍以上の日量 3 億 2,300 万立方メートルになるとしている。これは、EPE が前回発表した 2031 年の見通しの日量 2 億 7,700 万立方メートルを上回るという。

#### 4. おわりに

このように、ブラジルの原油、天然ガスの生産量は、プレソルトの油田開発により、増加傾向にあり、さらに順調に伸びていくことが期待されている。

Lula 次期政権が、経済状況の改善、雇用の創出、貧困の緩和等の公約を実現するためには、原油は引き続き重要な収入源であり続けると考えられる。継続的な増産を見守っていかざるを得ないだろう。

しかし、ここまで見てきたように、ブラジルの石油・ガス部門への政府の関与は増加し、Petrobras は上流、中流、再生可能エネルギーと多くの分野への投資を余儀なくされる可能性が高まっており、このような原油生産の傾向、見通しに影響が出かねない。

Lula 氏はまた、ブラジルの環境政策を見直し、アマゾンの熱帯雨林の伐採を抑制するとしている。気候変動への取り組みは、ブラジル経済低迷やエネルギー価格の上昇を引き起こす可能性がある。

一方、ブラジル議会上下両院では、Bolsonaro 氏が率いる自由党と右派勢力が過半数を占めており、Lula 氏はエネルギー政策の法制化にあたっては、中道派の社会民主党などの政党と取引をすることが不可欠となる。

このような状況の中、Lula 次期政権がどのような政策をとり、どのように Petrobras に対処していくのか、動向を注視していく必要がある。

以上

(この報告は 2022 年 11 月 17 日時点のものです)